

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題	
				達成度	成果○と課題●			
1	学校経営	①コミュニケーションを大切にしたい学校経営を推進するとともに、生徒理解を基礎に据えた教育活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接週間を適時設定し、生徒理解を深めるために生徒とのコミュニケーションを図るきっかけをつくる。（教務）</li> <li>生徒1人1台端末の個別最適な学び・協働的な学びに関わる利活用をさらに推進していく。（総合企画）</li> <li>面接週間、ホームルーム活動の活用、職員間のコミュニケーションを通し、生徒理解と生活実態の把握に努め、充実した学校生活を送れるよう配慮する。（1年・2年・3年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画に従い1・2年生は3回、3年生は2回の面接週間を設定し、面接を実施した。（教務）</li> <li>生徒1人1台端末の各教科における個別最適な学びや各教科および総合的な探究の時間における協働的な学びに関わる利活用がさらに進んでいる。（総合企画）</li> <li>面接週間を予定通り実施し生徒理解に努めた（1年）</li> <li>面接週間で3回、その他、必要に応じて面接を行い生徒理解に努めた。面接週間の短縮授業は大変有効であった。（2年）</li> <li>概ね達成できた。（3年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時期を捉えて、生徒の学習・生活状況など生徒理解に努め、助言を行った。（教務）</li> <li>○緊急時（臨時休校など）における授業配信については、各教科担当者の端末で各科目ごとに作成されたClassroomにより配信する体制の整備が進められた。（総合企画）</li> <li>○学校全体としてGoogle Workspaceの利活用が一層進んだ。（総合企画）</li> <li>●学習に役立つアプリに関する情報をさらに集め、検討する必要がある。（総合企画）</li> <li>●2学期期末試験後からの欠席増加に歯止めがかけられなかった。（3年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート（保護者）の回答数が2割減っている。Googleフォームを利用すれば回答しやすい環境が期待されるが、個人情報流出等を懸念した方もいたのではないかと。また、さくら連絡網だけでなくGメール等にも同時に送信されるようにするようお願いしたい。</li> <li>・PTA総会等で、さくら連絡網の機能やログイン方法等について説明することが重要である。</li> <li>・他との連携も大事だが、意見を聞きすぎると「南高らしさ」がなくなるので、確固たる信念を持ってほしい。その考えを支援していきたい。</li> <li>・学校評価アンケートについて、教員と生徒の回答数が増加していることは評価できる。保護者の回答数が減少したことについては、「学校への信頼度が高い」からと評価してはいいかがか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間外の面接を減らすために日程調整等を工夫する。（教務）</li> <li>・最後まで「学校に登校する」ことが原理・原則であることを、保護者に周知徹底する。（3年）</li> <li>・学校評価アンケート（保護者）の依頼・集約方法を工夫し、より多くの方々に回答していただけるようにする。（教頭）</li> </ul>
		②学級減に伴う教員定数の減少、海外研修旅行の実施など、学校変革期における体制の整備と対応を万全に図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムを有効活用し、教員の校務軽減に努める。（教務）</li> <li>・2年次の研修旅行の行き先が関西方面となるため、「台湾学」に限定しない総合的な探究の時間における探究活動をサポートする。（総合企画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e教務を活用し、出欠処理や成績処理、諸証明書等の作成を行った。（教務）</li> <li>・2年次の総合的な探究の時間においては、テーマを「台湾学」に限定せず、生徒個人の興味関心に従って個人あるいはグループでの探究を進め、発表会を実施することができた。（総合企画）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ処理担当者と入力時期を定め、入力漏れを無くした。（教務）</li> <li>●入力データの照合の整理が必要。（教務）</li> <li>○生徒個人の興味関心に沿った探究活動を実施したこと、「やらされ感」を軽減することができた。また、自己評価ループリックの結果から、総合的な探究の時間により取り組みで生徒たちは9つの「南高力」が伸びたと実感していることが伺われた。（総合企画）</li> <li>○2つの班（3人の2年生）が外部の大会でそれぞれの探究活動を発表することができた。（総合企画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、高校入試の方法の変更が予定されていると聞く。貴校の教育活動が充実するような運用を期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業を整理し、業務軽減に努める。（教務）</li> </ul>
		③ニューノーマル時代における新たな学びに対応し、さらに教職員の「働き方改革」を推進するとともに、PTAや後援会、同窓会等、外部団体との連携を密にしながら学校の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業見学週間を通じて、他教科の実践や一人1台端末を活用した授業を参観することで教員のICT活用能力を高める。（教務）</li> <li>・保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的参加を促すなど、保護者との連携を推進する。（総務）</li> <li>・同窓会事務局との情報共有に努める。（総務）</li> <li>・学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会を開催し、連携を強化する。（1年・2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業見学週間、学級閉鎖時のオンライン授業を実施した。（教務）</li> <li>・PTA広報誌「南高だより」は、コロナ前のように編集会議も行われ予定通り2回発行できた。PTA行事も再開されつつあり総会の出席率も6割を超え、保護者との連携を図ることができた。（総務）</li> <li>・学年PTA・保護者対象の講演会は開催したが感染症拡大の影響で学級懇談会は多くのクラスが1回にとどまった。（1年）</li> <li>・7月に理数科のクラス懇談会、12月に文系合同懇談会、理系合同懇談会を行い、家庭と学校との情報を交換し連携を深めた。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人1台端末の活用場面が増えている。（教務）</li> <li>●更なる利用改善を進めていきたい。（教務）</li> <li>●PTA活動の機会が減少していたり働き方改革もあり、今後のPTA活動の在り方について検討していく必要がある。（総務）</li> <li>●感染症拡大等の影響から、保護者懇談会等を計画しても開催できない状況が続いた。保護者とのコミュニケーションの機会を増やすよう努めていきたい。（1年）</li> <li>●クラス懇談会やPTA役員会を実施して、保護者とのコミュニケーションの場を確保する。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校等時間の月平均が80時間を超える先生がいるが、主な原因は部活動指導と考えてよいか。</li> <li>・スクールポリシーについては、掲げただけではなかなか生徒・保護者に浸透しない。先生方の人事異動等もあると思われるため、各年度で職員間でしっかりと共有したうえで、様々な場面で広報するようお願いしたい。今後どのように学校が変わっていくのか注目している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用を推進し、授業や業務を効率的に実施できるようにする。（教務）</li> <li>・PTA活動の在り方について模索する。（総務）</li> <li>・保護者とのコミュニケーションの場を増やす。（1年）</li> <li>・PTA役員をはじめとした保護者との情報交換の場を確保する。（2年）</li> <li>・7月と12月の2回の三者面談前を目安に、クラス懇談会を実施できるようにする。（3年）</li> </ul>
2	学習指導	④主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業変更を行い、可能な限り自習をなくすことで授業で学ぶ環境をつくる。（教務）</li> <li>・年間・月別行事予定を提示し、見直しをもって計画的に学習に取り組めるようにする。（教務）</li> <li>・教科ごとに校内研究授業を実施し、生徒の学習意欲向上や主体的に学習に取り組む姿勢の醸成について研究する。（教務）</li> <li>・Googleカレンダー等を活用したスケジュール管理について、教員間でも活用や指導に関するノウハウの目録合わせを行う。（総合企画）</li> <li>・授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、主体的に学習に取り組む態度を育成し、平日は一日150分、休日は一日240分以上の家庭学習時間を習慣化するよう指導する。（1年）</li> <li>・授業第一主義及びタイムマネジメントの徹底のもと、1人1台端末を活用しながら、予習、復習、課題に取り組ませ、平日は一日150分、休日は270分の家庭学習時間を習慣化するよう指導する。（2年）</li> <li>・授業第一主義のもと、タイムマネジメントを徹底させながら、予習、復習、課題に取り組ませ、部活動引退後は、平日270分、休日8時間以上の家庭学習時間を習慣化させる。（3年）</li> <li>・学習時間調査・成績分析・面談を行うとともに、教科担任・部活動顧問・家庭との連携を密にし、一人ひとりの生活実態を把握しながら、効果的な学習指導を行う。（1年・2年）</li> <li>・成績上位者の学習意欲を喚起し、学習リーダーとしての自覚を持たせ、自己実現への強い意志を育てるため添削指導を行う。（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の協力のもと、自習を極力減らし、生徒の学びにつなげることができた。（教務）</li> <li>・予定の提示を行った。（教務）</li> <li>・各教科で研究授業を実施した。（教務）</li> <li>・Googleカレンダー等を活用したスケジュール管理アプリを校務や授業に活用している教員もいるが、全体として活用のノウハウの目録合わせまでは行う機会がなかった。（総合企画）</li> <li>・最低限の予習や課題への取り組みは見られた。授業の中で考えようとする姿勢はかなり身についてきている。（理数）</li> <li>・進路課通信を通して学習時間調査の結果を伝えながら意識の高揚を図った。しかし、目標の時間までには到達できていない生徒が多かった。また家庭学習の習慣を身に付けることができている生徒がいる。（2年）</li> <li>・成績上位者59名に添削指導を行っている。ほとんどの生徒が積極的に取り組んでおり、少しずつ力をつけてきている。（1年）</li> <li>・1年次と比べると、スマホの時間が9分減り、3教科総合の平均が7分増えたが、5教科総合平均は増えていない。家庭学習の時間確保ができていない。また、教科別では数学の量が増え、国語と英語は減ってしまった。取り組みやすい教科に偏った勉強をしている。（2年）</li> <li>・長期休業終了直前に課題提出サポートを行ったり、赤点保有者との面談を行ったりして、学習する習慣を身に付けさせる指導を行った。（2年）</li> <li>・学習時間について数値的には届かない時期もあったが概ね達成できた。（3年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○バランスに配慮した授業変更を行うことが出来た。（教務）</li> <li>●数少ない機会ではあるが研究授業を通じて本校の授業スタイルを考える機会にしていく。（教務）</li> <li>○2年次の総合的な探究の時間においては、授業の予定や内容、見直しを共有するツールとしてGoogleカレンダーを有効活用した。（総合企画）</li> <li>●Googleカレンダー等を活用したスケジュール管理アプリについて教員間の目録合わせができればよいが、学び合いをする時間的な余裕がなく終わってしまった。（総合企画）</li> <li>○授業の中で考える姿勢が見える。（理数）</li> <li>●予習、復習にける時間を増加させる。（理数）</li> <li>●いかに目標学習時間に近づけるか。（1年）</li> <li>○面接週間だけではなく、適宜担任が2年面談を行い、生徒理解に努めた。（1年）</li> <li>●受験生という自覚を高めさせ、自主的に家庭学習時間を確保できるようにさせる。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの「授業内容」の項目で満足していると回答している生徒が前年比-7.8%になっている点が気になる。また、学校評価アンケートの「授業レベル」の項目で、適正であると回答している保護者も前年比-4.3%になっている。職員間で話合いして、学校全体として改善の取り組みを行っていく必要があると思う。</li> <li>・学習指導の充実によって、大学進学の実績が上がることを期待しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な授業変更の実施。（教務）</li> <li>・研究授業を充実させていく。（教務）</li> <li>・Googleカレンダー等を活用したスケジュール管理について、教員間でも活用や指導に関するノウハウの目録合わせを行う。（総企）</li> <li>・平日150分、休日240分の学習時間をいかに確保するか。（1年）</li> <li>・受験に対応できる家庭学習時間をいかに確保するか。（2年）</li> <li>・学習時間の確保のため、生活リズムの確立、隙間時間の活用を勧める。（理数）</li> </ul>
		⑤文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的・対話的に深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を養成し、発表の機会、場の設定などに配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業見学週間を活用し、他教科の指導からも学び、より質の高い指導力を身に付ける。（教務）</li> <li>・校内読書感想文コンクールを実施し、表現力の向上を図り、上位コンクールでの入賞を目指す。（教務）</li> <li>・総合的な探究の時間の運営をサポートしながら発表活動の機会を設け、探究的な学びに対する主体的・対話的な学びを継続的に促す。（総合企画）</li> <li>・大学入学共通テストを見据えて、文章や情報を正確に読み解く力を高め、国語・数学の記述力および英語の四技能を意識した授業を実施する。（1年）</li> <li>・「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性、多様性、協働性」の観点を意識した授業を実施し、大学入試で求められる知識・技能の変化を意識し、継続的に新しい学力を身に付けさせる。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学週間を計画し、他教科も含めて見学できる体制をとった。（教務）</li> <li>・1・2年生対象で読書感想文作成に取り組んだが、上位入賞等はなかった。（教務）</li> <li>・1・2年生における総合的な探究の時間の運営をサポートし、生徒一人一台端末によるGoogle Workspaceを活用した学びを推進した。また、探究活動に関する外部講師によるセミナーや発表会を実施した。（総合企画）</li> <li>・3年生課題研究発表会（英語）、2年生理数探究中間発表会、山形県探究型学習課題研究発表会参加、校内最終研究発表会を実施した。（理数）</li> <li>・各教科の授業において、共通テストを意識した授業を行った。（1年）</li> <li>・各教科担当者の努力により、ICTを活用したりグループ学習をしたりして主体的な学びを実践している。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業等で忙しく、十分な見学ができておらず、改善が必要。（教務）</li> <li>○総合的な探究の時間による取り組みは、情報分析力や主体的・対話的深い学び、思考力、表現力等9つの「南高力」に関わる能力を伸ばすことに繋がっている。（総合企画）</li> <li>○研究過程、発表を通して、思考力・判断力・表現力がある程度高めることができた。研究発表会研究発表を重ねることに表現力に磨きかけられた。（理数）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT等デジタル機器は必須の時代であるが、私は「ICTの活用=学力の向上」には絶対にならないと思う。是非、「南高らしい本物の体験」も同時に模索して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学週間の実施の仕方を検討する。（教務）</li> <li>・探究活動において、情報分析力や思考力、自主的・対話的な学びを継続的に促す。（総企）</li> </ul>
		⑥新教育課程における「総合的な探究の時間」の課題探究実践、観点別評価についての研究をさらに深める。また、個々の教師が身に付けた知識・技能に加え、求められる知識・技能が変わっていくことを意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続けていく姿勢を保つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で前年度の評価結果を検証し、観点別評価が、教師の指導改善及び生徒の学習改善につながるよう努めた。（教務）</li> <li>・総合的な探究の時間において、地域課題の解決を含む生徒それぞれの興味関心に沿う探究活動を促し、より主体的に「南高力」を身につける機会とする。（総合企画）</li> <li>・総合的な探究の時間並びに研修旅行を活用し、次代のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。（1年・2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で前年度実施担当者情報共有し、よりよい観点別評価になるよう努めた。（教務）</li> <li>・教員全体で総合的な探究の時間に関わる体制が整い、それぞれの教員が令和4年度末に受講した「探究活動および観点別評価について」の職員研修会で得た知識を生徒へのサポートや評価に繋げていった。（総合企画）</li> <li>・ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいた。（1年）</li> <li>・難関大添削（対象者は50名程度）を5月から国数英の3教科、1月からは理科も実施した。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観点別評価実施2年目で各教科とも理解と工夫に取り組んでいる最中であり、生徒の成長につながるよう今後の取り組みに期待したい。（教務）</li> <li>○今年度も職員研修会として観点別評価について教員の目録合わせを行うことができた。（総合企画）</li> <li>●探究活動における教員の役割や効果的なサポートの仕方についての職員研修会は設けることができなかった。（総合企画）</li> <li>●継続して添削を提出できなかった生徒がいる。上位層が薄いため、これ以上難関大志望者を減らさない工夫が必要である。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、多くの大学において、入学後の学習パフォーマンスが最も高いのは、推薦入試で合格した学生だと言われている。これは、大学で何を学びたいのかが明確で、入学後も意欲が維持または増大するからである。一方、最も入学後の学習パフォーマンスが低いのは後期一般入試で不本意ながら合格した学生である。従って、高校時代に、生徒自身が何に興味があり何を学んでいきたいかを明確にしていける活動を支援することがとても大切である。この支援は、塾では難しい。高校の先生方に期待したい。</li> <li>・「総合的な探究の時間」の探究成果を発表できる全国的なコンテストに積極的に参加させると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の適切な実施に向けて、職員間の共通理解を促す。（教務）</li> <li>・本校にふさわしい探究活動の在り方を引き続き模索しながら、教員の役割や効果的なサポートの仕方についての職員研修会を設ける。（総企）</li> <li>・理数探究の内容充実に向け、指導方法の研究を進める。（理数）</li> </ul>

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	自己評価		学校関係者評価 意見・要望・評価	次年度の課題
				達成状況	達成度		
3	進路指導	⑦確かな学力を基盤としながら、情報化・グローバル化など変化の激しい時代に求められる資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化の激しい時代における社会課題を総合的な探究の時間を通して考えさせながら、生徒1人1人端末によるGoogle Workspace活用のスキルを高めつつ、グローバル化についてより深い思考を促す。（総合企画）</li> <li>・外部模試による学習状況の分析とともに、個人の学力と学習の点検、確認を行わせ、弱点の補強と学力の向上に努めさせ、全国での学年平均点偏差値60以上、且つ65以上の生徒60名以上を目指す。（1年）</li> <li>・長期休業中の国語・数学・英語の講習を実施し、実践的な学力の向上を図る。（1年）</li> <li>・高大接続改革を踏まえ、Google for Education等を活用し、生徒自身の主体的な学びや人間的な成長を促し、大学で学ぶ力や社会で生きる力を伸ばす。（2年）</li> <li>・平常講習や蔵王学習会を実施し、志望校合格に向けた盤石な学力を確立し、最後まで粘り強く努力する態度を育成する。（3年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間を通して、社会の様々な問題について思考する力を伸ばし、外部の方からの講話によって、情報化・グローバル化による変化の激しい時代と日本を取り巻く状況について学んだ。（総合企画）</li> <li>・2年生対象に「県工業技術センター研修」、「山形大学理学部訪問」を実施した。（理数）</li> <li>・模擬試験を活用しながら現状把握と学習意識の高揚を図ってきたが、数値目標を達成できなかった。（1年）</li> <li>・総合的な探究の時間や模試の目標設定、進路研究などでGoogle for Education等活用した。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都に、「総合的な探究の時間」を活用して各先生方の専門性を活かしたゼミを開設している私立高校がある。授業よりも為になり深く学べるため、生徒の大学の学びやキャリア教育にもつながっている。先生方にとって無理と無駄がなく、専門性も発揮できる理想的な「総合的な探究の時間」のスタイルであると思うので参考にして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して、外部の方々と連携しながら、情報化・グローバル化の時代に求められる資質や能力について学び、視野を広げる。（総企）</li> </ul>
		⑧広い視野と高い志を育成し、国公立大学や難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒一人一人の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の進路目標に沿った指導を行い、国公立大合格150名以上、難関大学・医学部医学科合格20名以上を目指す。（進路）</li> <li>・大学入学共通テストにおいては、900点満点中600点以上の平均点獲得を目指す。（進路）</li> <li>・「1年職業講話」「各学年進路講演会」などを実施し、意識の高揚に努める。（進路）</li> <li>・希望者に対し、「医師体験」「看護師体験」「理学療法士・作業療法士体験」などに積極的に参加する。（進路）</li> <li>・総合的な探究の時間において「社会と自分の関り」について考えを深めさせることで、将来の進路やキャリアについて自分の興味関心や特性を活かしながらより幅広く考えられるようにする。（総合企画）</li> <li>・個別面談を通して、生徒一人ひとりの進路目標や適性を踏まえ、適切な文系・理系のコース選択の指導を行う。（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テストにおいては、学年総合559.2点（62.1%）、文系551.4点（61.3%）、理系563.9点（63.3%）の平均点を獲得できた。（進路）</li> <li>・「1年職業講話」「各学年進路講演会」を予定通り実施することができた。（進路）</li> <li>・「医師体験」、「看護師体験」には希望者が参加したが、「理学療法士・作業療法士体験」には希望者がいなかった。（進路）</li> <li>・山形大学理学部での高大連携実験講座を1年生は3回、2年生は2回実施した。（理数）</li> <li>・進路適性検査、文理選択希望調査を基に二者面談を通して適正文理選択の結果となった。（1年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育は非常に大切だと思う。高校1年生の段階から、今後も様々な講話や体験活動に触れさせることにより、各自の進路に対する意識を高める取り組みをお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する大学入試に関する情報を収集・発信し、生徒の進路目標実現に向けての支えとなるよう指導を行う。（進路）</li> <li>・進路目標実現に向けて、授業や講習・模試等を通じ、生徒に必要な力を身につけさせるよう指導する。特に大学入学共通テストから個別試験へとつながる成績が取れるよう、指導を行う。（進路）</li> <li>・難関大学や医学科へ挑戦していくよう、難関大セミナーや医進塾への積極的な参加を促し、動機づけを強化していく。（進路）</li> <li>・進路学習の一環として、大学生を招いた大学生活に関する講義を開催する。（1年）</li> </ul>
		⑨高大接続改革への対応と、県内大学等との連携充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テスト等、新しい大学入試制度への対応について、引きつづき研究を進め、必要な職員向け研修会にも参加する。（進路）</li> <li>・県教委「地元大学進学促進セミナー」への参加を積極的に促す。（進路）</li> <li>・高大接続改革を見据え、Google Workspaceを活用し、生徒のキャリア育成に資するとともに、情報化・グローバル化など変化の激しい時代に対応すべく最新の改革動向を踏まえ適切に対応する。（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テスト等への研究会等へ参加し情報の収集に積極的に参加し、情報共有した。（進路）</li> <li>・県教委「地元大学進学促進セミナー」へは1年生1名が参加したが、2・3年生からの参加者はなかった。（進路）</li> <li>・グローバルスタディーズプログラムに77名参加し新しい時代に対応する人材を育成する（1年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルスタディーズプログラムのような機会が複数回あると良かったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テストを含む大学入試に関するさらなる情報収集と研究及び令和7年度大学入学共通テストに向けた「情報」に対する3年次の対応・対策と新課程入試の研究を進める。（進路）</li> <li>・地元大学に限らず、各大学の魅力について、様々な場や手段を活用して発信していく。（進路）</li> </ul>
4	生徒指導	⑩自治的な生徒会活動と活発な部活動を奨励しながら情熱や粘り強さを涵養し、多様性の理解を促しながら自他を尊重しあう集団づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校部活動方針に基づき、各種大会での上位入賞・全国大会出場（30名以上）を目指す。働き方改革プランを踏まえ、合理的、効果的、効率的な活動を追求し、学習との調和に努める。（生徒）</li> <li>・自主的、積極的な生徒会活動を実践させ、互いに尊重、協力する姿勢と自他の命を大切にすることを育てる。（生徒）</li> <li>・部活動や生徒会活動への積極的参加を促し、自主自律の精神を育てる。（1年）</li> <li>・部活動や生徒会活動において中核となる自覚を促し、自主自律の精神を持って活動できるようにする。（2年）</li> <li>・最中学年として部活動や生徒会活動に積極的に取り組ませることで、情熱や粘り強さを涵養し、多様性の理解を促しながら自他を尊重し合う集団作りを行う。（3年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターハイに、団体にバドミントン部など個人種目も含めてのべ22名が出場。全国選抜大会に卓球部など11名、JOC全国大会にレスリング部が7名、団体に6名、合計46名の生徒が全国大会で活躍した。全国文芸コンクールでは、優良賞を獲得。全日本写真展で銀賞受賞。全国高総文祭には、文芸部・写真部・囲碁部が参加。全国囲碁選手権と合わせて10名の生徒が出場し、活躍することができた。（生徒）</li> <li>・学校祭では4年ぶりとなる飲食を伴う一般招待を行うことができた。各種生徒会行事は、コロナ禍前と同じように開催でき、自主的な活動が行えた。（生徒）</li> <li>・多くの生徒が部活動に積極的に取り組んだ。（1年）</li> <li>・生徒会長選に3名が立候補するなど、生徒会執行部希望者が多かった。新執行部を立ち上げ、『藩功（らいこう）』をスローガンに活動している。部活動については、積極的に取り組んでいる生徒が多く、東北大会等に多数出場し活躍した。（2年）</li> <li>・概ね達成できた。（3年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革が求められているなかで、部活動において多くの成果を上げていくことに敬意を表したい。野球部、バスケットボール部、バレーボール部等の団体競技にも期待したい。（生徒）</li> <li>・部活動の練習方法等についての様々な情報がインターネット上にあふれているので、より生徒が主体的に練習内容などを工夫しながら考察して取り組めるようにしたい。</li> <li>・朝に交通指導をしていると、挨拶をしてくる南高生に出会う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部指導者を活用しながら、働き方改革を踏まえたよりよい部活動指導を実践していく。（生徒）</li> <li>・部活動を3年間にわたって継続するために、学習とのバランスをとる。（1年）</li> <li>・進路目標達成にも良い影響があるため、学校行事や部活動で完全燃焼させる。（3年）</li> </ul>
		⑪学校全体でいじめ防止に取り組むとともに、読書やボランティア活動を奨励し、道徳心や公共心を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員研修や委員による広報活動を行い、図書館利用の促進を図り、読書活動を促し公共心を育成する。（教務）</li> <li>・校内読書感想文コンクールを実施し、読書の奨励を図る。（教務）</li> <li>・「いじめ・非行をなくそう」県民運動を踏まえ、生徒会によるスローガン等を作成しながら、生徒の自主的な企画及び運営による活動を促進する。（生徒）</li> <li>・生徒会や部活動、クラス単位、有志団体でのボランティアに取り組み、地域や社会の中で交流する場を積極的に設け、奉仕の精神や道徳心を育む。（生徒）</li> <li>・「我等の心得」に則り、自ら考え、南高生としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動がとれるよう指導する。（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館だより等の広報活動や読書感想文コンクールを行い、読書への動機付けを行った。（教務）</li> <li>・有志によるボランティアサークルが立ち上がり、自主的・積極的な活動を行った。（生徒）</li> <li>・地元町内会と連携を図り、学校周辺の除雪に、クラス単位で取り組んでいる。（生徒）</li> <li>・地域でのボランティア活動を行う生徒が、増えてきた。</li> <li>・「いじめ・非行をなくそう」スローガンを作成し、本校いじめ防止基本方針とともに生徒へ周知しながら未然防止を図ることができた。（生徒）</li> <li>・「我々の心得」の理解が不十分であり、自律的に行動できていないところがある。（1年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形市と連携して、公民館行事などに参加し、子どもや高齢者を支援しながら、一緒に行事に参加するといったボランティア活動を行っている有志がいるとのこと。大変素晴らしい活動だと思います。・SCにつながるいじめの重大事案はない。ただし、主訴はいじめではないと言いつつ、教室の中で悪ふざけについて、受けている側としては苦痛であると訴える生徒が数人いる。先生方と連絡を密にし、機敏に対応していただけており、組織的な対応が機能している。</li> <li>・高校生のスマホの使用時間が長くなっていることは、今や普通のことだと認識しなければならない。SNSの利用モラル等については、学校と保護者が連携して指導していかなければならない。</li> <li>・様々な事案が発生するのは当たり前のこと。大事なのは、高校時代に様々な体験や失敗をして豊かな人間になること。</li> <li>・学校評価アンケートを見ると、生徒指導について、教職員と生徒・保護者の評価に差があるようなので、改善が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を奨励し、道徳心や公共心を醸成する。（教務）</li> <li>・地域等でボランティア活動を行っている生徒に対し、支援及び広報活動を充実していく。（進路）</li> <li>・自治的・自律的な南高生を育てるために、生徒間の連帯を促し、生徒会及び委員会等を活性化させる。（1年）</li> </ul>
		⑫自己肯定感を高めるとともに、自己管理能力の養成と教育相談の充実により、生徒の心身の健康保持に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非行行為の皆無、いじめや盗難のない安心・安全な学校環境づくりのために、「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ち、自主的で自律した活動を奨励する。（生徒）</li> <li>・様々な生徒に対し、養護教諭やSCと協力、連携しながら生徒指導を行う。（生徒）</li> <li>・面接週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、早期に学校生活に適應できるように配慮する。（1年）</li> <li>・自己管理能力を高め、基本的な生活習慣を確立し、自他を尊重し高めあう集団を育成する。（1年）</li> <li>・「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ちながら、多様性を理解し自他を認め合う集団を目指し、1年生の模範となるよう努める。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故件数は現時点で16件。大きな事故にはなっていないが今後も0件を目指す。（生徒）</li> <li>・不登校傾向、配慮が必要な生徒との生徒間のトラブルに対して、担任、学年、養護教諭、SC等連携しながら対応できた。（生徒）</li> <li>・面談週間だけではなく、適宜担任が二者面談を行い、生徒理解に努めた。（1年）</li> <li>・基本的な生活習慣はおおむねできているが、スマホの使用時間が長かったり、身の回りの私物の整理整頓ができていなかったりと自己管理（自律）できていない生徒が若干いる。（1年）</li> <li>・2年生となり、南高生としての自覚が少しずつ出てきた。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCとして生徒・保護者に対するカウンセリングを行っている。南高生のはんの一部ではあるが、以下のような生徒も存在する。気分不調が続き教室に入れない、学習・部活動が本人のキャパを超えている、能力はあるが人間関係を上手く構築できない、適応困難、起立性調節障害、睡眠・生活リズムの乱れ、SNSトラブル、性意識のずれ等。保護者からは、心療内科等専門機関受診の必要性について尋ねられることが多い。かなり多様性が出てきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車利用時のヘルメット着用についての指導（生徒）</li> <li>・生徒会活動等を通して、学校周辺での交通マナーの向上を図る。（生徒）</li> </ul>

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題	
				達成状況	達成度	意見・要望・評価		
5	その他	⑬新型コロナウイルス感染症等、感染拡大防止に向けた取組みや事故の未然防止、事故等発生時における的確な対応など、安全教育・安全管理の取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策に関する通知に従い、適切な授業計画及び運営を行う。（教務）</li> <li>・「さくら連絡網：健康チェック」の活用により、生徒の健康状態を把握して感染症等を未然防止する。また、手指消毒、手洗い、消毒、教室の換気、うがい等を励行する。（保健）</li> <li>・校内外の点検等により学校事故の根絶、安全点検の徹底を図る。（保健）</li> <li>・定期的に安全点検を行い、事務室と連携し、危険箇所を修繕する。（総務）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策や事故の未然防止に努め、事故発生時における的確な対応など、安全教育を推進する。（1年）</li> <li>・周囲への配慮と、健康の自己管理、維持・増進に努めさせる。（1年）</li> <li>・持ち物の自己管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。（1年）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症等の対策や事故の未然防止に努め、様々なリスクについて注意を促し、安全教育を推進する。（2年）</li> <li>・持ち物の自己管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。（2年）</li> <li>・新型コロナ感染等の拡大防止に向けた取組みを徹底して、健康管理、維持・増進に努めさせる。（3年）</li> <li>・持ち物の自己管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。（3年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級閉鎖が起こったクラスがあるものの、大幅な授業計画の変更はなかった。（教務）</li> <li>・感染症対策として「さくら連絡網：健康チェック」を活用、各掃除箇所に「消毒グッズ」を設置。（保健）</li> <li>・熱中症対策としてAED講習会や各部へ熱中症計配布、また保健だより等により、大きな学校事故を防ぐことはできた。（保健）</li> <li>・定期的に安全点検を行い、危険箇所の修繕については、速やかに技能員に確認してもらい対応している。（総務）</li> <li>・感染拡大防止のため日々マスク着用、うがい、手洗いを呼びかけたが、7月にコロナ感染、11月にインフルエンザ感染が拡大し多くのクラスが学級閉鎖になってしまった。（1年）</li> <li>・自転車による事故が多数発生した。（2年）</li> <li>・概ね達成できた。（3年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級閉鎖時には適宜オンライン授業を行い、学習機会の継続を図った。（教務）</li> <li>○感染症対策として、各掃除場所へ消毒グッズや消毒液の設置により対策ができた。また、保健委員により放送等で感染拡大防止の呼び掛けを実施した。（保健）</li> <li>○昨年と比較してAED講習の職員参加率が高く、安全対策向上がみられた。（保健）</li> <li>●さくら連絡網「健康チェック」の生徒への実施徹底、感染予防行動の実施と意識の向上（保健）</li> <li>●設備が古くなって根本的な改修が必要な部分が増えている。（総務）</li> <li>●新型コロナウイルスの5類移行後の対応、マスク着用の徹底。（1年）</li> <li>●自転車事故ゼロにするための生徒会、委員会の活動と、教員の注意喚起の継続（2年）</li> <li>○紛失・盗難もなく、大きな事故等もなかった。（3年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南高生の自転車に乗るスピードがものすごく、夜には非常に危険であると感じている。バスが乗客を降ろすために道路脇に駐車しているところを、道路の中央側をものすごくスピードで追い越していく生徒を見ると本当に危ないと思う。安全指導を徹底して欲しい。</li> <li>・学校祭の後、コロナ感染により休業したことがあったが、それは生徒たちがぶつかり合って密接になった証拠である。このような世の中で、せめて高校では自由にのびのびとして逞しい生徒に育てて欲しいと思うので、やりたいことをガンガンやって欲しい。OBとしては、世間の言葉が何か出てきたら、もみ消す努力をしますので、先生方は安心して下さい。今後も期待しています。</li> <li>・来年度、山形県が自転車のヘルメット利用を後押ししようとしたが、南高としてどのように取り組むつもりか。</li> <li>・今年度は、熱中症対策で体育祭が中止になった。日常的に暑さに慣れるような体力づくりや運動に取り組むことで逞しい体づくり、中止を回避できれば良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる授業の効果的な実施について研究する。（教務）</li> <li>・さくら連絡網「健康チェック」の活用について見直ししていく。（保健）</li> <li>・コロナ、インフルエンザ等の感染拡大を防ぐために、マスク着用、うがい、手洗い等を徹底させる。（1年）</li> <li>・自転車事故防止に向けて指導を強化する。（2年）</li> </ul>
			⑭校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年での指導により、HPC教室や廊下はきれいな状態を保つことができた。（保健）</li> <li>・事務室と連携を図り校内の施設・備品の整備を適宜行った。（総務）</li> <li>・担任団で統一して教室・廊下の整理整頓を呼びかけた。（1年）</li> <li>・教室や廊下、ロッカーの上の整理整頓は良くなってきているが、まだ、自主的な取り組みになっていない。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごみの分別は、今年度瓶缶を各階教室棟の指定場所にゴミ箱設置によりある程度成果はあった。（保健）</li> <li>●各教室廊下の整理整頓を徹底させることが今後の課題。（保健）</li> <li>●自分たちで整理整頓、環境美化に努める自主的な活動を促したい。（1年）</li> <li>●教材等への記名の徹底させたい。（2年）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が主体的に整理整頓、環境美化に努められるよう、自主的な活動を促す。（1年）</li> </ul>
			⑮積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会及び中学校における学校紹介を行い、入学希望者に対して適切な広報活動を行う。（教務）</li> <li>・南高ブログの管理を適切に行う。（総務）</li> <li>・「さくら連絡網」の活用や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にする。（1年）</li> <li>・学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会を開催し、連携を強化する。（1年）</li> <li>・必要に応じて保護者面談・三者面談・家庭訪問を実施する。（1年）</li> <li>・学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にする。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会及び中学校を訪問しての学校説明を行った。（教務）</li> <li>・南高ブログの管理を適切に行うと共に、昨年度より回数は減ったものの更新を適宜行った。（総務）</li> <li>・「学校案内」の中に理数科情報をコンパクトにまとめた。2年生理数探究発表を代表1グループが行った。（理数）</li> <li>・担任中心に必要なに応じて保護者面談・三者面談を実施し生徒理解に努めることができた。しかし学年通信は年に10号にとどまり学校での生徒の様子を詳しく伝えることができなかった。（1年）</li> <li>・1月末時点で学年通信を38号発行し、学校での生徒の様子や各種情報を保護者と共有した。（2年）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒の協力を得て行うことができ、中学生に南高を知ってもらう良い機会となった。（教務）</li> <li>○南高ブログを適宜更新しタイムリーに情報を発信することができた（総務）</li> <li>○南高理数科の特徴や魅力を発信できた。また、生徒の研究発表はわかりやすく好評であった。（理数）</li> <li>●行事のたびにタイムリーな情報発信ができなかった。（理数）</li> <li>●学年通信を発行して学校での生徒の様子を保護者に伝えることで、学校と保護者の共通理解を図る。（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は、進学したい高校についてHPやブログ等で主体的にどンドン調べている。南高生の活躍については、みんな興味を持ってみている。今後も、南高生の活躍について、こまめに広報していただきたい。</li> <li>・コロナ前は、気候の会議室をお借りして東原第4地区自治会総会を開催し、避難場所の確認も実施していた。学校と地域のつながり、震災対策等の観点から、再び貸していただけるよう検討いただきたい。</li> </ul>